ねじれ国会 論戦ゴング

自民「クリンチ作戦」とは

衆議院は与党、参議院は野党が大勢を占める「ねじれ国会」は九日、論戦の花形、衆院予算委が始まった。参院で法案を通し、与党に ビ首を突き付けようという民主党に対し、自民党は執拗に話し合いを要求する「クリンチ作戦」。これに、民主党が「密室協議には応じない」と応酬するなど「ねじれ」は最高潮だ。

いやぁ、ねじれてますねえ（イラスト・なかだえり）

「話し合いを」首相繰り返す

強い野党を前に涙ぐましい変身ぶり

強行採決の常連「数の力」どこへ

パンチ〝防ぐごまかし？

筋書きあり〝場外〟協調か

ボクシングの防御テクニックになぞらえ、民主党から「（自民党はクリンチ作戦で逃げている」（鳩山由紀夫幹事長）と激しく批判されながらも参院選の大敗後、話し合い路線は徹底している。自民党の柔軟路線、話しし合いたい」と繰り返す。単純な猛進は無理と分かるう」と、民主党内の親米派と、自衛隊の活動内容を給油・給水に限定するなどした新法の骨子案を即座に作成。与党内で了承されるが早いか民主党に事前協議を持ちかけた。

この案に対しても、小沢氏が「（給油活動は）基本的に憲法上許されない。その原則については協議のしようがない」と突っぱね、三日の衆院本会議での代表質問では、鳩山氏が「新法であれ、活動継続は反対。民主党は談合のような密室協議にはお付き合いしかねる」と明言。

それでも首相はめげず、九日の予算委員会で「（一九九一年の）湾岸戦争が起きた時、日本は医務官の派遣すらあきらめざるを得なかった。味わった無力感は大きかった。民主党も思いはほとんど同じだったと思い、民主党内の親米派を意識したメッセージを発信した。

強硬路線が参院選惨敗につながった面があり、参院で与党が過半数割れした現状では野党の協力なしでは物事が動かない―とは言っても、涙ぐましい変身ぶりだ。

まずは十一月に期限を迎える海上自衛隊によるインド洋での給油活動の継続問題。民主党の小沢一郎代表は早々とテロ特別措置法の延長反対を明言したが、福田康夫首相はことあるごとに「野党と誠意をもって話

自民党の論戦の狙いは、民主党の「数の力」にものを言わせてきたのは自民党。先の通常国会では国民投票法や教育基本法を、選挙直前にも社会保険庁改革法や国家公務員法などの強行採決が続いただけに「あんたが言うか」の声も。

ガチンコ勝負は不利とみて、さかんに「話し合いましょう」と誘う自民党に、民主党側は「協調といえば響きはいいが、ある意味では談合」（鳩山氏）と警戒。誘いに乗るどころか、年金保険料流用禁止法案や障害者自立支援法改正法案など五本をすでに参院に提出し、今後もイラクに派遣されている航空自衛隊の撤退法案など、パンチを繰り出すつもり。

これに対し、スペクター氏は「日本の議員は外で飯を度うのが仕事で、国会内でしているということはメーンじゃない。だから、国会が面白くない」と両党に自然した打ち合いを求め、こう注文する。「民主党はまだ政権与党になる自覚が見えない。もっと弾を込めて攻撃的になるべきだ。自民党は長年独占企業だったのに、チャンピオンが逃げ回るのは格好悪い。ロッキーじゃないが、リングに上がって一度負けたほうがいいのでは」

手を振り払う力あるのか疑問も

「いや、意外に自民党のよけ、攻撃するのが本当のボクシング。クリンチなんて、自分が弱いのを認めているようなもんだよ。うちのジムの選手にも百パーセントやるなと言っている」として、こう強調する。

「どんな世界や職業にも、とことんやってだめなことはあるけど、政治にクリンチなんて言葉を使うのはおかしい。クリンチがうまいというのは、ごまかしがうまいということだからね。やられた方は、振りほどけばいけない」と述べた。

ただ、先日まで「数の力」にものを言わせてきたのは自民党。先の通常国会では国民投票法や教育基本法を、選挙直前にも社会保険庁改革法や国家公務員法などの強行採決が続いただけに「あんたが言うか」の声も。

ガチンコ勝負は不利とみて、さかんに「話し合いましょう」と誘う自民党に、民主党側は「協調といえば響きはいいが、ある意味では談合」（鳩山氏）と警戒。誘いに乗るどころか、年金保険料流用禁止法案や障害者自立支援法改正法案など五本をすでに参院に提出し、今後もイラクに派遣されている航空自衛隊の撤退法案など、パンチを繰り出すつもり。

これに対し、スペクター氏は「日本の議員は外で飯を度うのが仕事で、国会内でしているということはメーンじゃない。だから、国会が面白くない」と両党に自然した打ち合いを求め、こう注文する。「民主党はまだ政権与党になる自覚が見えない。もっと弾を込めて攻撃的になるべきだ。自民党は長年独占企業だったのに、チャンピオンが逃げ回るのは格好悪い。ロッキーじゃないが、リングに上がって一度負けたほうがいいのでは」

手を振り払う力あるのか疑問も

「いや、意外に自民党の

デスクメモ

野党は安倍政権の方が戦いやすいというのは正しかったみたい。「福田首相ってソフトだね」という感想をよく聞く。政府与党の強硬路線が長かったゆえの反応。皮肉にも「安倍効果」だ。でも、数の力を満喫した人々が「話し合おう」と言い出したのは笑える。衆院選で勝ったら、また変身すんでしょ？（隆）

民主「密室協議お断り」

自民党と民主党、どちらの筋が通っているのか。

放送プロデューサーのデーブ・スペクター氏は「クリンチ」という例えがぴったり。自民党は政権を奪われまいと必死だからクリンチする」と評する。「相手のエラー、スキャンダルを待っている状態」とも。

「どっちもどっち。民主党が事前協議を断っているのは表向きで、実際は、かなりやりとりがあるのではないか」と冷ややかなのは、米国で日本人ロビイストとして活躍した「リーダーシップJAPAN」の岸田眞子代表。

怖い一発逆転

岸田氏は、米国でも連邦議会近くのバブで共和党と民主党の議員が談笑し、ホテルなどで非公式に事前協議することを指摘し、こう言う。「日本の自民党と民主党も、トップ同士はよくご存じ。筋書きがあって、役を演じているだけでは」

「談合だ」「聞く耳持たない」―火花散らす与野党。自民党の森喜朗元首相（右）と民主党の鳩山由紀夫幹事長（コラージュ）

「クリンチはしなかった」輪島さんからのWBA世界ジュニアミドル級選手権（1975年）での勇姿

ボクシング用語ですが…

元世界王者「輪島功一さん」「弱さ認めたも同然」

クリンチは、ファンならおなじみのボクシング用語。抱きついたり、しがみついたりして相手のパンチを防ぐ技術を指す。「釘の先を曲げて固定する」といった意味の英語「clinch」に由来するという。

クリンチを得意とするのは、長身でリーチがあり、足を使って相手と間合いを取るアウトボクサータイプ。相手の得意な距離に踏み込まれた瞬間にクリンチして、パンチを打ちにくくさせる。

昨年八月のWBA世界ライトフライ級王座決定戦で、微妙な判定で勝った亀田興毅が終盤、相手のランダエタにクリンチして逃れた場面は記憶に新しい。

しかし、接近戦を好むプアイタータイプだった元世界ジュニアミドル級王者・輪島功一氏は「俺はリーチは短いし、背も低いから、乗っかかられると疲れる。自分からは絶対クリンチしなかった。もしやられたら、膝の力を抜いて座るようにする。そうすると相手のほうが疲れるんだ」と振り返る。

クリンチをテクニックとして評価する専門家もいるが、もみ合ったまま時間が過ぎていくため、観客には不評なことも。

レフェリーが注意してもクリンチや相手の腕を抱くホールディングを繰り返すと、反則を取られることもある。輪島氏は「（頭を下げる）ダッキングやサイドステップで相手のパンチをやらない。